

7. モデル地区におけるケーススタディ

7.1 モデル地区の概要

(1) モデル地区選定市町村の抽出

今回奈良県内の簡易水道を有する 18 市町村にアンケート調査を実施し、その中から簡易水道統合に積極的な L 村、地域づくりに積極的な M 村、地元の管理状況の実態把握が不十分な N 村の 3 市村についてヒアリング調査を実施した。

これらの調査を基に、簡易水道の経営統合が一応実現し、施設統合が未実施で、検討資料が入手できた M 村をモデル地区の検討対象の村として選定した。

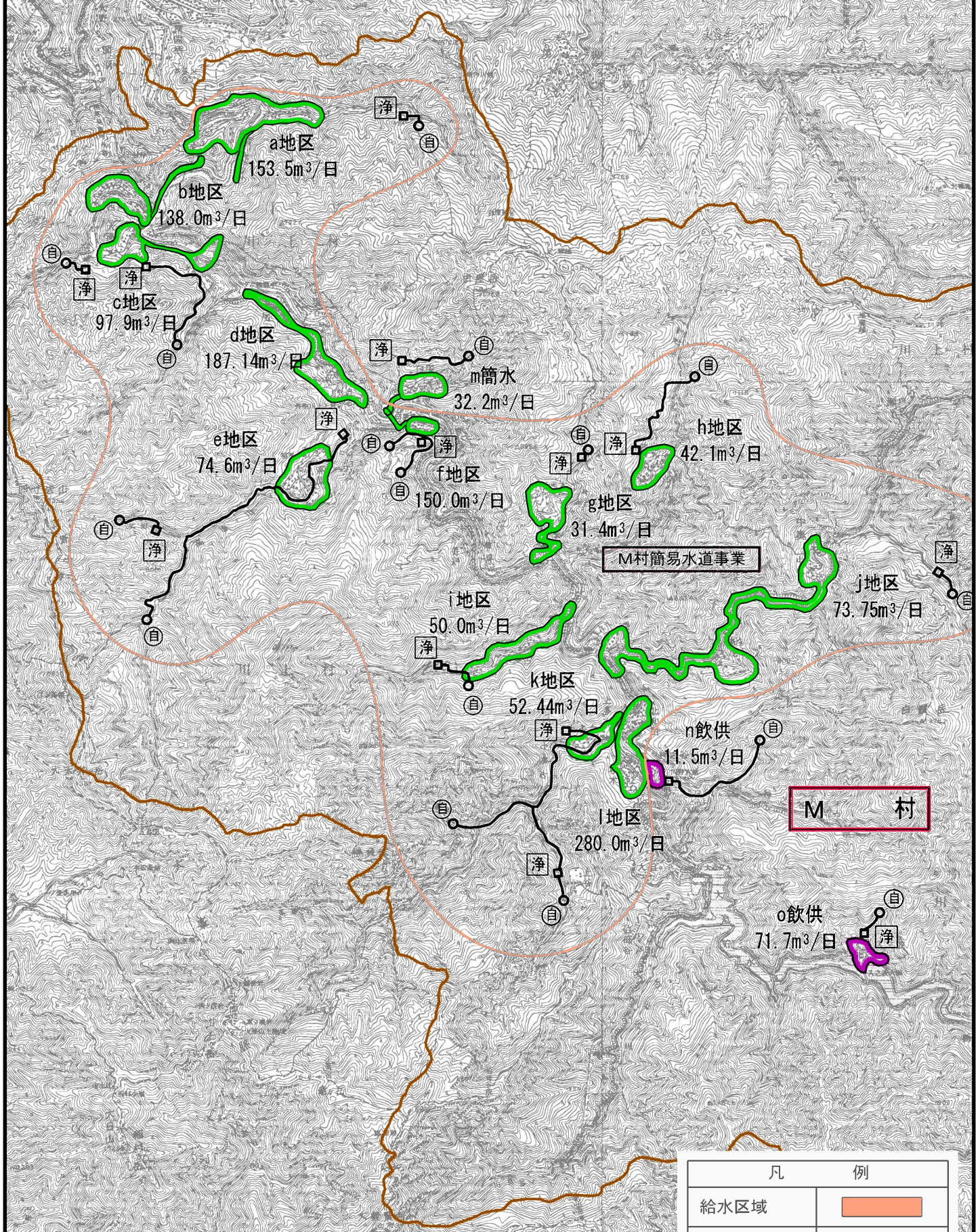
(2) 簡易水道の概要

M 村の簡易水道は昭和 31 年に給水開始した地区をはじめとして 13 地区の簡易水道があったが、平成 20 年に人口減少によって廃止された 1 地区を除く 12 地区が M 村簡易水道事業に統合された。

次頁に、M 村簡易水道事業の区域図を添付する。

M村水道施設位置図

S=1/25,000



凡	例
給水区域	
行政区域	
計画給水区域	

7.2 統合検討モデル地区の選定

M村において水源や水道施設の統合による有効活用を検討するため、統合が可能な水源や浄水施設を有する地区の抽出を行う。

地区の選定においては、次の事項を選定条件とした。

- ◆ 水源水質が良好であること
- ◆ 地区と地区間が近接していること
- ◆ 管路での接続（融通）が可能であること
- ◆ 統合後も水源水量が確保できること
- ◆ 自然流下での導水、送水、配水が可能であること
- ◆ 村の中央を流れる本川の横断を必要としないこと

以上の選定条件により2つのエリアを選定し、それぞれのエリアから3地区を選定した。選定したエリアは次のとおりで、それぞれの地区の概要を整理する。

ここに示す一日最大給水量と計画給水人口は、平成20年度のM村簡易水道への統合前の計画値である。

Aエリア	Bエリア
◆ d 地区	◆ l 地区
◆ e 地区	◆ k 地区
◆ f 地区	◆ i 地区

（１）Aエリアのモデル地区の概要

１）d 地区

創設年月日	：平成10年4月15日
一日最大給水量 計画給水人口	：187.1m ³ /日
	：187人
現在給水人口	：156人（平成25年1月31日現在）

２）e 地区

創設年月日	：平成8年3月29日
一日最大給水量 計画給水人口	：74.6m ³ /日
	：259人
現在給水人口	：129人（平成25年1月31日現在）

３）f 知地区

創設年月日	：昭和56年4月16日
一日最大給水量 計画給水人口	：150.0m ³ /日
	：200人
現在給水人口	：41人（平成25年1月31日現在）

(1) Bエリアのモデル地区の概要

1) l 地区

創設年月日		: 昭和 56 年 6 月 15 日
	一日最大給水量	: 280.0m ³ /日
	計画給水人口	: 720 人
現在給水人口		: 180 人 (平成 25 年 1 月 31 日現在)

2) k 地区

創設年月日		: 平成 15 年 3 月 24 日
	一日最大給水量	: 52.4m ³ /日
	計画給水人口	: 124 人
現在給水人口		: 65 人 (平成 25 年 1 月 31 日現在)

3) i 地区

創設年月日		: 昭和 56 年 4 月 16 日
	一日最大給水量	: 50.0m ³ /日
	計画給水人口	: 200 人
現在給水人口		: 34 人 (平成 25 年 1 月 31 日現在)